

授業改革と 動き育てる組織づくりの **ススメ** vol.7

第7号で紹介するのは、石狩管内教育推進の重点1の「対話」を重視した授業改革と、ICTを有効活用した授業改革について、全ての子どもが主体的に考え、考えや気持ちを伝え合えるよう工夫している事例です。

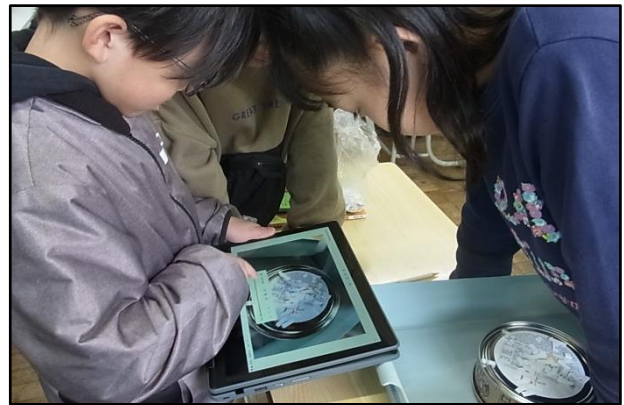
対話を重視した授業改革とICTを有効に活用した授業改革の実践事例

石狩市立生振小学校 第3学年 算数



数学的活動を通して身の回りのものの重さの表し方や比べ方について話し合い、実際に調べた結果を記録シートに入力していました。
他のグループの記録と比較することで、任意単位を使って重さを表すことのよさを見いだしていました。

千歳市立北栄小学校 第3学年 理科



缶を叩いて音を出した時の様子を録画し、缶の上の紙切れのふるえ方を調べていました。
小さい音と大きい音を出した時の動画を比較し、気が付いたことを話し合ったり、予想と結果を比べたりしながら、主体的に考えを伝え合って理解を深めていました。

北広島市立西の里中学校 第1学年 理科



弦を弾いて出した音を端末のオシロスコープで記録し、音の波形の特徴を調べていました。
音の高さや大きさを変えて比較し、音と波形の関係について気が付いたことや考察したことを対話し、価値交換を通して理解を深めていました。

恵庭市立恵明中学校 第3学年 音楽



文楽「義経千本桜」を鑑賞し、人形・太夫・三味線(三業)の役割について考えることで、我が国の伝統音楽の特徴から生まれる魅力について話し合っていました。
音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いていました。

【担当から】

質の高い「対話」と、迅速且つ大量に考えを共有する「ICT活用」により、全ての子どもが主体的に考え、伝え合いながら学びを深め、資質・能力を確実に身に付けられるよう、授業改革の一層の充実を図っていきましょう。
(義務教育指導班指導主事 新井 宏)